



～特集～

【河川を学び、伝える】

- 三重県
安濃川をフィールドとした河川学習について
～三重大学教育学部附属小学校との連携～
- 大阪府
次世代の大阪府河川事業を担う人材を育てる

～トピックス～

- 大阪市
都心の中の親水スポット「β本町橋」
- 近畿地方整備局
近畿地方整備局の河川分野におけるインフラDXの取り組み

かわの情報誌 “さらさ” 第117号

ページ

河川紹介

- 2 七瀬川(京都市) (A)

特集

【河川を学び、伝える】

- 3 安濃川をフィールドとした河川学習について
～三重大学教育学部附属小学校との連携～ (B)
三重県 県土整備部 河川課

- 5 次世代の大阪府河川事業を担う人材を育てる (C)
大阪府 都市整備部 河川室

トピックス

- 7 都心の中の親水スポット「β本町橋」 (D)
大阪市 建設局 企画部 河川課

- 9 近畿地方整備局の河川分野における
インフラDXの取り組み
近畿地方整備局 河川部 河川管理課

季節の水辺風景

- 12 ～青土ダムの桜並木～(滋賀県) (E)

水辺を楽しもう

- 13 普通河川 高瀬川 水辺空間・親水空間の再生・創出
～水辺を歩く歴史散策スポットへ～ (F)
京都市 建設局 土木管理部 河川整備課

インフォメーション

- 15 河川などのリアルタイムな情報をお届けします!
～近畿地方整備局河川部のTwitter～



国道24号上流部

七瀬川は、京都市伏見区を流れ、宇治川支川の東高瀬川に合流している一級河川です。

七瀬川は河川幅が狭く、浸水被害が度々発生していました。構造に二層式河川を採用して浸水に対する安全性を高めるだけでなく、安らぎや華やかのあるまちづくりの一環として、上部河川は潤いと安らぎの感じられる空間を創出し、せせらぎや植栽を生かした親水河川としました。

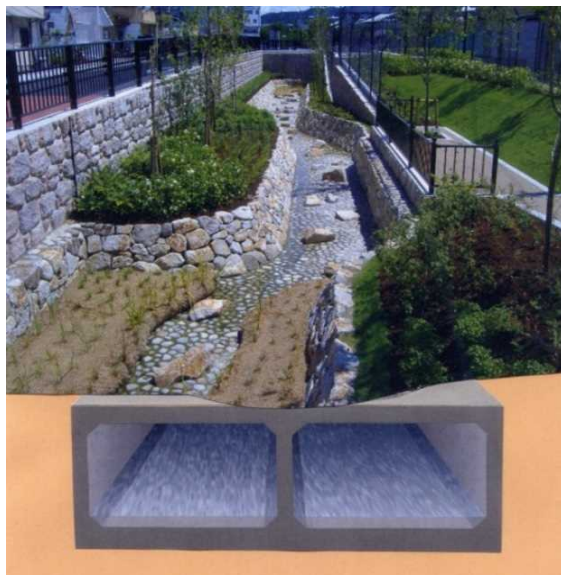
七瀬川 ななせがわ



※図中 A ~ F は記事の位置を示しています。

二層式河川イメージ図 ▶

植栽を活かしたゾーンについては、平成20年度に完成し、10年以上の経過を経て、より自然に近い景観となっています。(左下写真)



国道24号下流部

～特集「河川を学び、伝える」～

あのうがわ
安濃川をフィールドとした河川学習について
～三重大学教育学部附属小学校との連携～

三重県 県土整備部 河川課

1. はじめに

国土交通省が平成30年3月に作成した「水と川学びのススメ」において、「豊かで多様な自然環境を有する「川」には、防災や水利用、歴史文化など、さまざまな学習素材が内在しています。これらの学習素材を学校教育現場の学習活動に活用することで、次世代を担う子どもたちに必要とされる感性を育み理性を培うことにつながります。」とされています。

身近な水や河川に関する様々なテーマを学習素材とすることや河川を通じた教育を学校において取り組むことは、「河川学習を通じた防災意識の浸透」「河川や自然を大切に作る心の醸成」に繋がり、子どもたちの感性や理性を様々な面から育むことに役立つと考えています。

本稿では、三重県中勢部を流れる二級河川安濃川をフィールドとした教育関係機関（三重大学教育学部附属小学校）との連携について、これまでに三重県が取り組んできた事例について紹介します。

2. 二級河川安濃川の特徴

あのうがわ
安濃川は、その源を津市芸濃町の山間部に発し、穴倉川と美濃屋川を合わせて伊勢湾に注ぐ流路延長23.9km、流域面積110.7km²の二級河川です。その流域は、三重県中央部に位置し、県の中心地となる県都津市を流れ、上流部は山地部が占め、中流及び下流においては、氾濫平野が広がった堆積物より成っています。

あのうがわ
安濃川流域における治水事業は長い歴史を持っています。江戸時代初期には津の藩主を勤めていた藤堂高虎が、下流部に位置する津の城下町を守るため、塔世橋付近から上流にかけて約6kmの堤防が築かれ、また河口より6.2km付近の右岸堤防を低くして、一度洪水が起こればこの堤防を越流させて三泗川を通して岩田川に流下させる治水方法を採用していました。（写真-1、写真-2）



写真-1 安濃川から三泗川への越流箇所

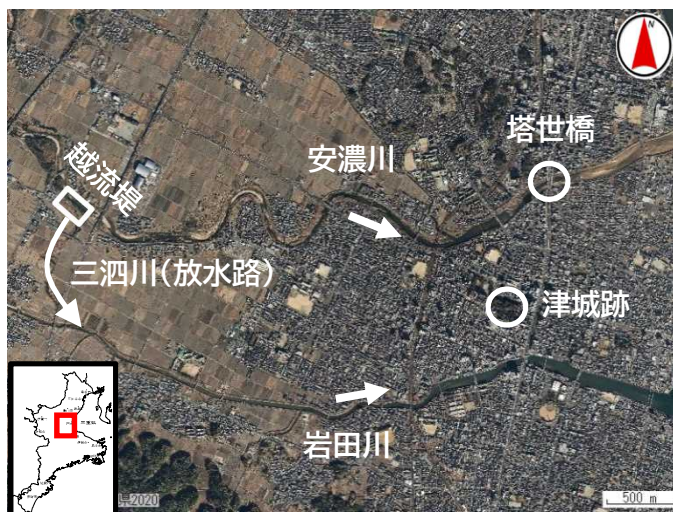


写真-2 安濃川下流部の航空写真

また、中流部においては、霞堤も数多く設置されており、いろいろな先人たちの治水上の工夫がされている河川です。(写真-3)



写真-3 安濃川の霞堤



写真-5 YouTubeチャンネルにデータベース化されているVR動画(令和2年8月撮影)

【附属小】ドローン映像データベース →



3. これまでの取組と成果

三重県河川課では、平成30年度から安濃川^{あのうがわ}を題材として、三重大学教育学部および三重大学教育学部附属小学校と連携(河川学習等)を始めています。平成30年11月には、小学3年生のみなさんに河川についての理解を深めていただくため、過去の水害、河川計画、河川工事等について授業を行いました。(写真-4)

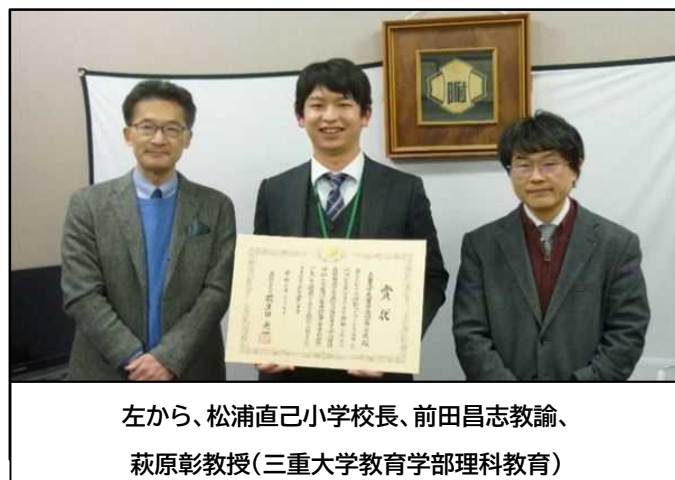


写真-4 附属小学校での授業風景

附属小学校では、近年全国各地で豪雨災害が頻発化・激甚化する中、児童が主体的・対話的な学びを通して命を守る行動の必要性を学ぶため、地元の安濃川^{あのう}等をフィールドとした河川防災教育に力を入れています。また、ドローンを使った新しい取組としてドローン映像とVR技術を活用した河川教育教材の開発と実践を行っています。自宅学習にも対応できるようYouTubeチャンネルに映像のデータベースも構築しています。(写真-5)

このような活動が評価され、他校の模範となる素晴らしい活動を行った学校が表彰される「河川基金優秀成果表彰 文部科学大臣賞」を令和元年度に三重大学教育学部附属小学校が受賞しています。

(写真-6)



左から、松浦直己小学校長、前田昌志教諭、萩原彰教授(三重大学教育学部理科教育)

写真-6 令和元年度河川基金優秀成果表彰(文部科学大臣賞受賞)

4. おわりに

今回、三重大学教育学部附属小学校と協働して様々な取組を実施してみて、改めて次世代を担う子どもたちに河川学習を通じて、豊かで多様な自然環境を有する河川の大切さを伝えることは、とても重要であると感じました。今後も様々な関係者と協働し、「河川を学び、伝える」取組を進めていきたいと考えています。

(写真出典: 1. 3. 5. 6. 三重大学 2. 4. 三重県)

次世代の大阪府河川事業を担う人材を育てる

大阪府都市整備部河川室

1. はじめに

大阪府では平成22年に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、「人命を守ることを最優先とすること」を基本理念に、「防ぐ」施策の河川整備などのハード対策だけでなく、住民の避難行動の支援などの「逃げる」施策、ため池などの既存ストックを活用した流出抑制対策などの「凌ぐ」施策を組み合わせた治水対策を行っています。

令和2年には、気候変動による降水量の増大や水害の激甚化が予想されていることを踏まえて地域の企業、住民の方々などを含むあらゆる関係者が協働して、流域全体で治水対策を行う「流域治水」へ転換する方針が国から示され、これまで大阪府が進めてきた取組をより一層強化していく必要があります。

このような状況の中、大阪府河川室では、担当技術者として必要な技術力を養い、技術的根拠をもとにしたわかりやすい説明で府民の方々に理解が得られるよう、若手職員を対象にした様々な研修を実施しております。今回は、府の取組の一つをご紹介します。

2. 取組み事例

大阪府河川室では、入庁5年目までの若手職員を対象に“次世代の大阪の河川事業を担う人材を育てる”ことを目標として「河川技術者研修」を実施しています。

研修の内容としては、座学と現場研修に加え、グループワーキングによる討論を行っています。

座学では、図-1 講座体系図に示すとおり、河川に関する法律、計画、設計、施工、維持管理など系統立てた講義に加え、流域治水などの最近の動向や住民の避難行動支援など様々な内容を取り扱っています。

講師は中堅クラスの職員が担当し、これまでの経験を活かしわかりやすく伝えるとともに、講師自身の説明能力の向上も図っております。

現場研修では、一般的な河川改修の現場だけでなく、携わる機会が少ない地下河川や南海トラフ地震対策などの大規模事業の現場についても学び、河川事業をより深く理解出来るようなカリキュラムを設定しております。

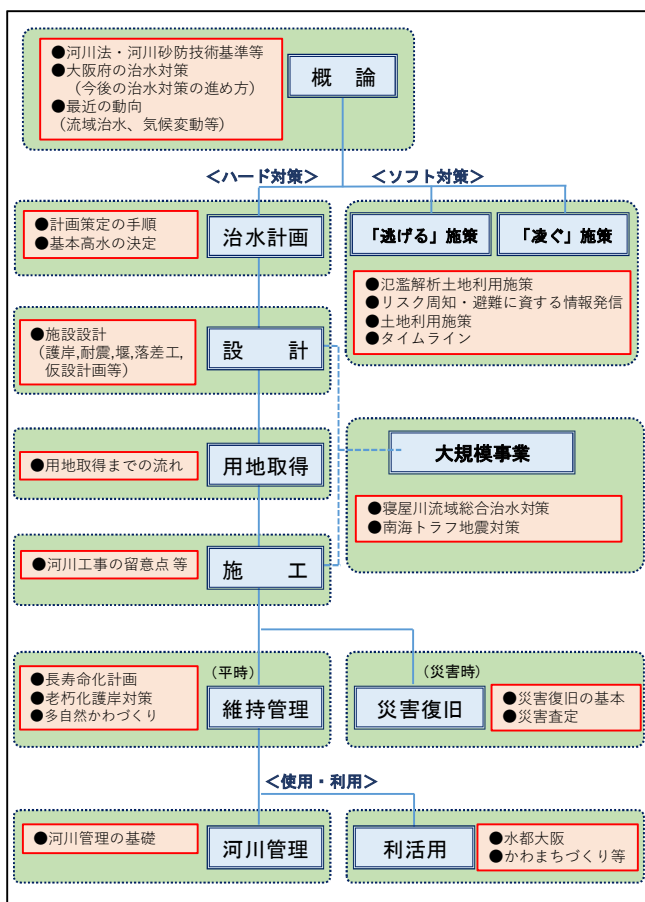


図-1 講座体系図

グループワーキングでは、受講した講座の中から、興味や関心を持ったテーマを選定し、将来の“かわづくり”について考える場を設け、現状、課題を整理し、新たな提案をとりまとめ、発表まで行うことにより、ディスカッション能力や自主性を促しています。

さらに、WEB会議の環境が整ったことから、受講生以外の職員も聴講できるよう、オンラインでの配信を開始したところ、受講者を大きく増やすことが出来ました。



写真-1 河川技術者研修（座学）

3. おわりに

本研修の受講者からは、「河川に関する計画・設計・技術基準・ソフト対策等を学ぶことで、自身の河川事業に対する知識と理解を深めることができ、今後の仕事のやり方、見方が変わった」、「地元の方への説明は、技術的な内容に加え、真摯に向き合う人間力が大切」などの感想が寄せられたほか、オンラインによる聴講では、これまで河川行政に携わらなかった職員から「河川に関する基礎的なことを学べる」という感想が寄せられるなど、大変好評を得ております。

大阪府の各土木事務所等では、出前講座や河川施設見学などのイベントを定期的を実施しております。コロナ渦で開催が不定期ですが、機会がございましたら是非ともご参加いただき、若手職員が一生懸命に説明する内容を聴いて頂ければ幸いです。

最後に、大阪府ではこのような人材育成に注力するとともに、引き続き、府民の安全・安心の確保に向け、ハード・ソフトが一体となった治水対策を進めてまいります。



写真-2 現場研修の様子（地下河川）



写真-3 グループワーキングの様子

《出前講座、河川施設見学の案内例》

大阪府／出前講座 <https://www.pref.osaka.lg.jp/ne/kyodo/demae.html>

大阪府／津波・高潮ステーション <https://www.pref.osaka.lg.jp/nishiosaka/tsunami/index.html>

都心の中の親水スポット「β本町橋」

大阪市建設局企画部河川課

1 東横堀川にβ本町橋がオープン

大阪市は水の都と呼ばれていることからわかるように、水に恵まれた都市であり、実際に本市面積の約1割が河川で占められています。特に都心部において、道頓堀川及び東横堀川を含む河川が「ロの字」回廊を形成しており、川を活かしたまちづくりにとって重要な役割を担っています。

そんな回廊の一部である東横堀川において、昨年8月28日、水辺の賑わい創出拠点として、β本町橋が開業しました。オープニングセレモニーでは、水上自転車やSUPによるゲストの登場演出のほか、能奉納やテープカットなどのイベントも開催されました(写真-1、2)。

また、中浜下水処理場からβ本町橋隣接施設を通じて東横堀川へ送水される超高度処理水を使用した展示会や光るマンホールのデザイン表彰式などもとり行われました。



写真-1 オープン初日の様子



写真-2 テープカットの様子

2 β本町橋誕生の経緯

本市では「水の都・大阪再生」の実現を目指し、大阪府とともに水の回廊における遊歩道や船着場といった河川環境整備等を断続的に実施しており、その1つとして東横堀川における賑わい創出に取り組んでいます。

東横堀川は、大阪でも有数の商業エリアを流れており、水辺の集客拠点である大阪城や中之島、道頓堀川を繋ぐ水の回廊の一部であり、都市域における貴重な水辺空間です。しかし、護岸が高いことや河川上空を阪神高速道路が占有していることなどもあり、暗く閉鎖的な空間としてのイメージが定着してしまい、長い間水辺の持つポテンシャルが活かしきれませんでした。そのようななか、地域を中心とした東横堀川水辺再生協議会の活動が

2006年からスタートし、清掃活動やイベント、社会実験などが継続的に行われ、水辺の魅力づくりの機運が高まってきました。そこで、民間事業者によるアイデア・企画力・経営能力等を活用し、官民共同の水辺の賑わい空間の創出を目指して、事業者公募を実施し、東横堀川から広がる賑わい創造拠点としてβ本町橋が誕生しました(図-1)。β本町橋の運営主体は、東横堀川水辺再生協議会の活動で出会った有志メンバーで構成されており、地域とともにまちの魅力づくりに取り組む水辺拠点として20年間の事業をスタートしました。



図-1 β本町橋位置図

3 β本町橋で体験出来ることは？

β本町橋では、公園施設としての機能だけではなく、東横堀川をきっかけに様々な体験を通じて、人々との交流の場としての役割が期待されています。例えば、SUP や水上自転車を利用し水上散歩に出かけてみたり、本町橋船着場より大阪湾へ繰り出すクルーズ船に搭乗して海釣りに出向いたりなど、普段の日常とは違った景色を楽しむことができます（写真－3）。また、β本町橋には係留施設もあり、都心部で貴重な小型船の基地となっているため、気軽にチャータークルーズも可能です。

β本町橋では食を通じたイベントも数多く開催されています。建物1Fのキオスクではドリンク販売はもちろん、シェアキッチンパートナーによる日替わりランチ等の販売、「都心部の水辺」という空間を活かしたアウトドアダイニングなども開催しています。また、手押し式屋台を利用して、手作りのお菓子やお花、小物といったハンドメイド商品の販売なども個人で行うことが可能です。

そのほかにも、ビジネス利用やグループミーティング、ワークショップを開催するなど、様々な用途に合わせて利用できるレンタルルームがあります。1つはβ本町橋2Fのガラス張りとなっている、広くて開放的なお部屋で、東横堀川を一望できます（写真－4）。また、β本町橋1Fにあるキッチンルームもレンタルすることができ、料理教室やイベントなどで利用することで、いつもとは違った空間を楽しむことができます。

このように、β本町橋では東横堀川を拠点として様々な活動を行うことができます。



写真－3 水上アクティビティとβ本町橋



写真－4 イベント時のレンタルルームの様子

4 東横堀川における今後の賑わい創出について

β本町橋の開業により、また1つ大阪の水辺における賑わいエリアが誕生することとなりました。本市では今後、β本町橋をきっかけとし、東横堀川沿川を通して、都心の水辺における賑わい創出を目指していこうと考えています。都市河川としての魅力を感じることができるβ本町橋に是非一度足を運んでみてください。



β本町橋アクセス

〒540-0029

大阪市中央区本町橋4番8号

Osaka Metro「堺筋本町駅」

1番出口より徒歩5分

HP:<https://hommachibashi.jp>

近畿地方整備局の河川分野におけるインフラ DX の取り組み

近畿地方整備局 河川部 河川管理課

1. 背景

インフラ分野において、災害対策やインフラの老朽化対策の必要性が高まる一方、今後深刻な人手不足が進むことが懸念され、国土交通省では平成 28 年から ICT 技術の活用等による建設現場の生産性向上を目指す取り組みを推進しています。

また、新型コロナウイルス感染症発生を契機とし、公共工事の現場において非接触・リモート型の働き方に転換するなど、感染症リスクに対しても強靱な経済構造の構築を加速することが喫緊の課題となっています。

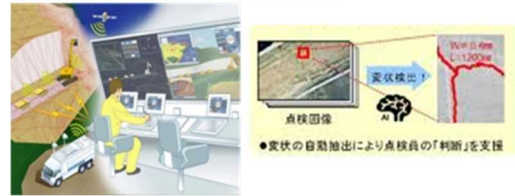
2. インフラ分野の DX

2.1 概要

インフラ分野においてもデータとデジタル技術を活用する DX[※]の取り組みにより、社会経済状況の激しい変化に対応し、安全性や生産性の向上、見える化、住民とのコミュニケーションの向上など、様々な課題解決や業務の改善・進化につなげていきたいと考えています。
※DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること

「知識・経験」のDX

誰でもすぐに現場で活躍
～インフラ分野におけるAI活用で
熟練技能を継承～



「モノ」のDX

誰もが簡単に図面を理解
～BIM/CIMの導入による建設生産プロセスの変革～



2.2 効果

インフラ分野において、DX を実現することで、①行政手続きの迅速化や暮らしにおけるサービス向上の実現、②危険・苦渋作業からの解放による、安全で快適な労働環境の実現、③検査や点検、管理の高度化の実現、④在宅勤務や遠隔による災害支援などの新たな働き方の実現、といった様々な効果があります。

2.3 推進

非接触・リモート型の働き方への転換と抜本的な生産性や安全性向上を図るため、5G等基幹テクノロジーを活用したインフラ分野のDXを強力に推進していきます。

また、インフラのデジタル化を進め、令和5年度までに小規模なものを除く全ての公共工事について、効率的で質の高い建設生産・

「行動」のDX

どこでも可能な現場確認
～対面主義にとわられない
働き方の推進～



管理システムの構築が可能となる3次元で構造物を表現するBIM/CIM活用への転換を図っています。

さらに、現場、研究所と連携した推進体制を構築し、DX推進のための環境整備や実験フィールド整備等を行い、3次元データ等を活用した新技術の開発や導入促進、これらを活用する人材育成を実施していきます。

3. 近畿地方整備局におけるDX推進体制

近畿地方整備局では、インフラ分野のDXを推進していくため、令和2年12月に近畿インフラDX推進本部を設置しました。

また、人材育成や情報発信を目的として令和3年4月に「近畿インフラDX推進センター」を近畿技術事務所内に開設しました。

この施設では、DX推進に必要な不可欠な官民の人材育成のためBIM/CIM、ICT、無人化施工の研修を実施しています。また3Dモデルの操作体験や新技術の紹介など、来場者向けに様々な情報発信も行っています。



図：無人化施工研修の様子



図：3Dモデルの操作体験の様子

4. 河川分野のインフラDX取り組み事例

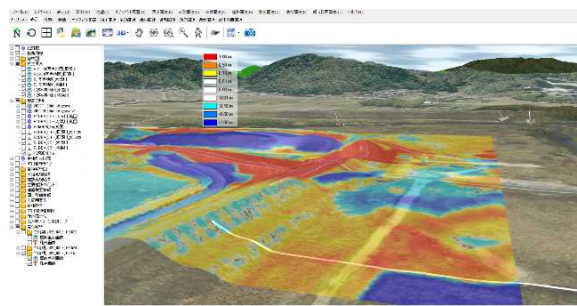
河川分野におけるDXとしては、ドローン、ウェアラブルカメラ、3次元管内図などのデジタルツールの活用により「調査・計画」、「設計・施工」、「維持・管理」、「防災」などの各場面で業務・現場作業の効率化、省人化、迅速化、確実性向上などを図っていきます。（主な取り組み事例は次ページ参照）

また、流域情報の収集・集積・伝達、予測の高度化を推進していくため、水位計等の観測網を充実させるとともに、流域全体の関係者間で河川やダム の状況、今後の水位予測等の情報共有を図るなど、情報分野での流域治水の取組を加速することで、円滑な災害対応を実現し、住民の安全・安心につなげていきたいと考えています。

5. おわりに

DXとは、単に仕事をデジタル化することを目的とするのではなく、デジタル技術を活用して業務のプロセスや働き方を見直すことにより、人々の生活をよりよく変革することを目指すものです。

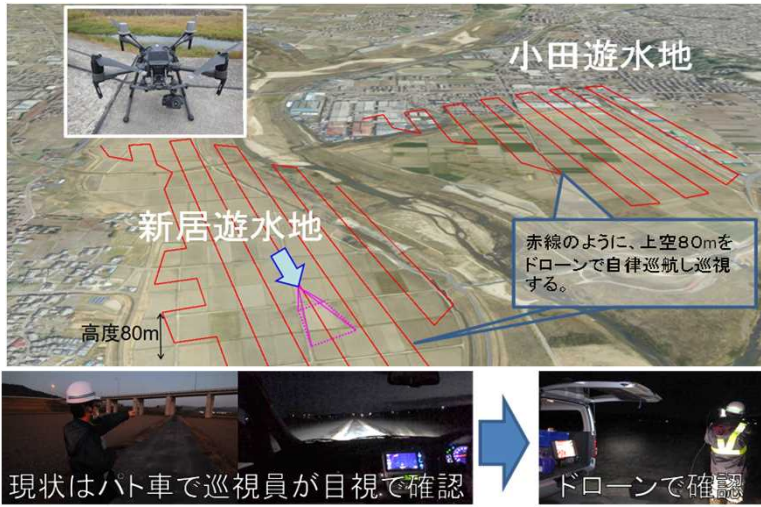
河川分野においてもDXの取り組みにより、河川や流域の特性を踏まえた行政サービスの向上や安全・安心な地域づくりに向けた河川整備、河川管理を進めていきます。



図：3次元管内図による堤防変状の把握

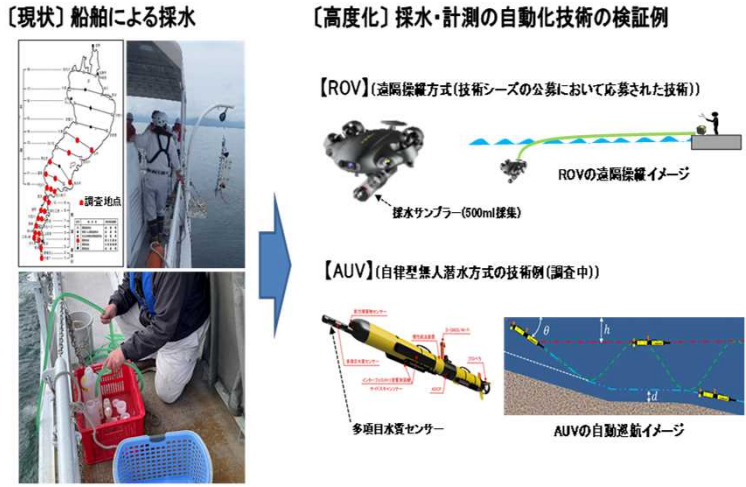
上野遊水地におけるドローンによる湛水前巡視の効率化

【課題】 広大な遊水地の湛水前の巡視には多くの要員と時間を要し、洪水時の負担が大きい。
 【取組】 ドローン自律巡航による赤外線カメラの画像検出により、夜間においても農耕者等を速やかに抽出し退避の促しを検証・試行。
 今後は自動検出としてAI活用も含め検討。



水中ドローン等を活用した水質調査技術の高度化

【課題】 広範な琵琶湖における水質調査は、船舶により現位置で採水し試験機関にて分析しており、時間と費用を要している。
 【取組】 水中ドローン等に搭載する各種水質センサの自動計測の可能性について実証し、調査・試験手法を見直し。



ウェアラブルカメラを活用した施設点検の効率化、評価技術支援

【課題】 河川管理施設の除草後の徒歩による年に2回の点検は、堤防延長(管内延長：約900km)が長大なため、時間と費用を要している。
 【取組】 変状箇所等の確認にウェアラブルカメラを活用し、熟練専門技術者の遠隔臨場により即時に補足調査し今後の対応方針などを判断。



三次元管内図の活用による河川管理業務の効率化及び高度化

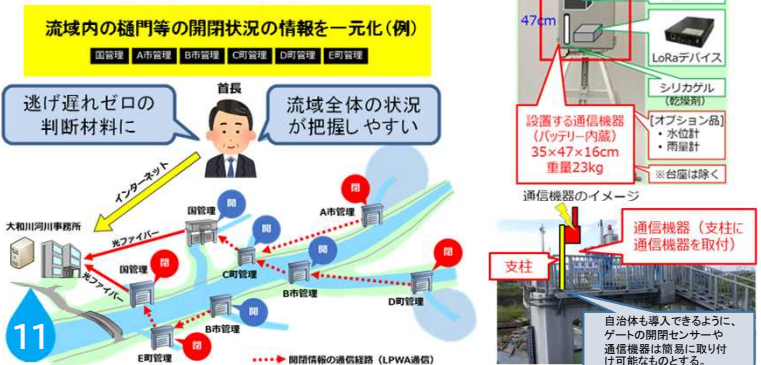
【課題】 維持掘削や樹木伐採の抽出、工事や点検履歴の確認、重要水防箇所等の各種管理データ確認等に職員の手間や時間がかかるため、効率化や高度化が必要。
 【取組】 各河川事務所で整備中の三次元管内図について、現場の職員がいつでも活用するためにシステムをカスタマイズする。



流域治水の推進に向け出水時における流域内の諸情報を低コストに一元化

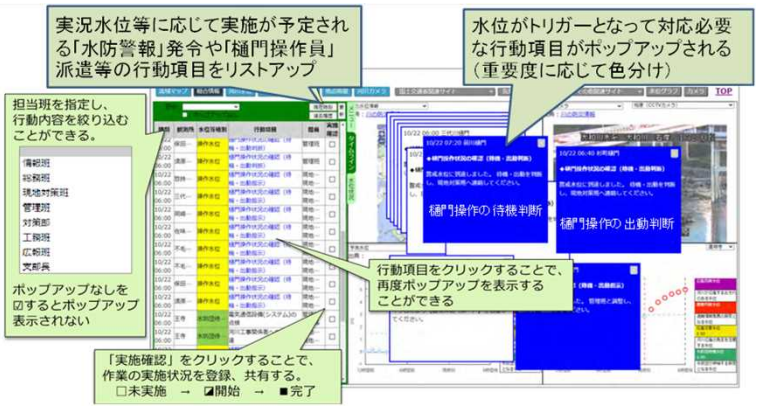
【課題】 例えば、流域内における樋門の開閉状況は施設管理者毎に確認が必要のため、時間を要しており迅速化が求められる。
 【取組】 流域内の諸情報や各管理者の情報の一元化を低コストなLPWA技術による簡易な通信システムを構築。

LPWA技術による実証イメージ



ポップアップアラートによる災害対応業務の確実性向上

【課題】 洪水対応業務では水防警報発令等を確実に実施する必要があり、各種情報を目視で常時監視するが、いかにタイミングを逃さず確実に実施するかが課題。
 【取組】 実況水位や予測水位に応じた行動開始の機を逃さないためのポップアップアラートを試行のうえ災害対策室のシステムに導入。





～青土ダムの桜並木～

滋賀県 青土ダム

おおづち

青土ダムは、滋賀県南東部の甲賀市土山町（淀川水系野洲川上流）に位置しています。

青土ダムの特徴は、個性的な半円型の常用洪水吐であり、水が流れ落ちるさまは美しく吸い込まれそうになります。

春には周辺の桜が咲き始め、青土ダムに、より一層の彩りを与えてくれます。

また、ダムサイト周辺には公園や展望広場の他、レクリエーション施設「青土ダムエコーバレイ」も整備されており、地域の方々にとって、憩いの場となっています。

～水辺を楽しもう～

普通河川 高瀬川 水辺空間・親水空間の再生・創出



～水辺を歩く歴史散策スポットへ～

京都市 建設局 土木管理部 河川整備課

1. はじめに（高瀬川の歴史）

高瀬川は、京都市の繁華街を流れる河川で、四季折々の顔を見せ、春の川沿いを彩る桜は絶景です。また、昼間は旧土佐藩邸や舟を係留した一之船入（いちのふないり）など、川沿いの木屋町通を歩くことで歴史散策ができるスポットとなっており、夜には河川沿いに立ち並ぶ飲食店が、昼間とは違ったムードを漂わす二面性を持った空間となっています。

高瀬川の歴史は深く、慶長19年（1614年）に角倉了以と素庵親子により開削された、全長約1.1kmの400年を超える歴史を持つ運河です。

当時、上流は二条通付近で一級河川鴨川より取水し、鴨川と並行して流れており、十条通付近で鴨川を横断し、下流は伏見の一級河川宇治川へと繋がっていました。現在では、十条通付近で鴨川に合流する延長は約4.5kmの普通河川となっており、鴨川より下流は一級河川東高瀬川となっております。

高瀬川の完成により大阪方面からの物資が淀川から高瀬川を通じて市中まで舟で運ばれることで京都の物流は大きく進展しました。これに伴い、高瀬川沿いには、材木町、石屋町、塩屋町など、川沿いで営まれた商店の名残のある町名が今も残っています。

高瀬川は水深が20～30cmと浅いため、船底が平らな舟に船頭が乗り、曳き子が岸から縄で引っ張るといふ、「高瀬舟」が物資の輸送のため航行していたことは有名です。（写真①）



写真① 高瀬舟(一之船入付近)

2. 高瀬川の改修

近年、護岸の損傷や老朽化に伴う漏水による水枯れが発生していることから、抜本的な修復を行い、水量を確保して魅力ある水辺づくりを目指しています。平成24年に一之船入から改修工事に着手し、令和2年度に五条通までの約1.8kmが完成しました。

改修工事を進めていくに当たっては、「高瀬川フォーラム（座談会）」を開催し、地元関係団体や企業との意見交換を重ね、改修計画をたて、工事に着手しました。

改修工事では、河床に漏水防止の遮水シートを設置し、護岸は既存の石を再利用して積み直しや護岸基礎の補強として根継ぎを行いました。また、同時に隣接する木屋町通の歩道の一部改修と街路樹についても一部植え替えを行い、川沿いを散策できる水辺空間の再生・創出を行いました。（写真②）

3. おわりに

令和2年度に五条通までの改修工事を完了し、水辺を散策できる親水空間の整備が完成しました。

現在、五条通～七条通南の間についても、地元と意見交換を行いながら改修工事の着手に向けて進めています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の対策等で外出する機会が減り、せっかく完成した親水空間の散策を楽しんでいただくことができない状況が、現在も続いています。このような状況を打開するため、京都市では新たな取り組みとして、市内を流れる本市管理の河川の景観を楽しんでいただくために、河道から見える景色を写真で連続的に繋いだリバービュー（河川版ストリートビュー）の映像をホームページに掲載しています。

昨年の春に撮影した、数河川ですが、春の京都の川を桜と共に楽しんでみてはどうでしょうか。（写真④）



写真② 親水空間の創設(四条通付近)

この改修工事に合わせ、川沿いの飲食店についても景観に配慮した看板の設置などの協力により、よりよい景観となりました。



写真③ 旧立誠小学校前の夜桜風景

幕末まで土佐藩邸があった旧立誠小学校は、民間企業により当初の風情を残した宿泊施設に生まれ変わり、高瀬川沿いに彩りを添えています。（写真③）



写真④リバービューの画像(高瀬川四条通付近)

※本市リバービューHP への QR コード



京都市建設局
イメージキャラクター
「せっちゃん」
タイトル部は同イメージキャラクター
「けん君」



河川などのリアルタイムな情報をお届けします！

～近畿地方整備局河川部の Twitter～



国土交通省 近畿地方整備局 河川部

@mlit_kinki_riv



国土交通省近畿地方整備局河川部の公式アカウントです。私たちの管理する河川を中心に「川の防災情報」や「川にまつわるイベント情報」を発信します。ご意見等は公式HPへお願いします。みなさまの積極的なフォローをよろしくお願いします！

フォロー

発信内容

①河川に関するイベント情報、役立つ情報

河川を楽しむ情報や、話題を発信します！



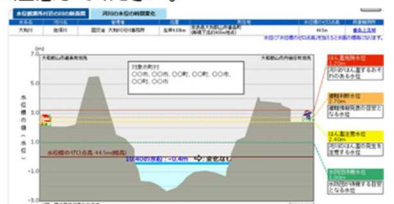
②水害・土砂災害情報(川の水位情報等)

台風や大雨で川が増水したときに、いち早く情報発信していきます！

Twitterの確認はこちらのQRコードから！



〇〇川の〇〇水位観測所の水位が氾濫注意水位(警戒レベル2相当)に達しました【20〇〇年〇月〇日〇時〇分現在】。今後さらに水位が上昇する見込みです。引き続き水位情報に注意してください。



(例)

〇〇川では、〇〇市〇〇地区付近において氾濫が発生しました(警戒レベル5相当)【20〇〇年〇月〇日〇時〇分現在】。直ちに各自命を守るための最善の行動をとってください。近くの安全な場所や屋内の高いところに避難してください。



(例)

■編集後記

新型コロナウイルス感染症の対応等でお忙しい中、投稿していただいた各府県と各政令市のご担当者様におかれましては、ご協力いただきありがとうございます。紙面をお借りしまして御礼を申し上げます。

今後も、かわの情報誌「さらさ」を情報共有・情報発信の場としてさらに活用し、かわの魅力や楽しさを発信していただければと思います。

編集担当：京都市 建設局 土木管理部 河川整備課

編集・発刊：三重県、福井県、滋賀県、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県、和歌山県、国土交通省近畿地方整備局